島嶼学概論Ⅱ　　2013.1.24

教育学研究科 教育実践総合専攻 理数・環境系コース
修士課程１年　0712840290　本川悠平

中之島講義レポート
―島の発展のためにはどうすればよいのか―

今回、鹿児島県南部に位置し島嶼地域である自然環境、伝統文化など個性に満ちたトカラ列島・中之島を訪問させていただいた。そこで、中之島の魅力と各種における現状、課題について触れることができ、たくさんのことを学ぶことができた。テーマである「島の発展の方策」について以下の項目を述べていくことにする。

1. 中之島講義(産業・医療・教育)からの現状把握
2. 島の発展に向けて

1. 中之島講義(産業・医療・教育)からの現状把握

中之島の畜産について、平泉さんからお話しを伺った。最近、肉牛の価格が高騰している。しかし、肉の価格はそのままであることに畜産農家が経営難に瀕していると苦悶の声を上げていた。また出荷の際、フェリーで本土まで牛を運ぶため、輸送費の問題であったり、獣医の不在による疫病の問題も語られていた。ブランド牛として付加価値や常駐獣医の政策に県や国が積極的に取り組むべきである。

次に、Ｉターンで中之島に来て漁師をやっている古橋さんのお話を伺った。主にイセエビとキハダマグロを獲っていらっしゃる古橋さんは、漁に対する情熱とひたむきに研究する日々の生活を語られていたので、終始感銘を受けていた。このような方が増えてさらに島の活性化につながっていってほしい。

診療所の手塚さんは、高度医療の行えない離島地域の問題とドクターヘリの内容について説明された。同じ保険料を払う島民に不公平な対応をとられるのに残念な心持ちである。また、なによりも島民の健康を第一に考えること重要であるため、常駐医師の配置を迅速かつ積極的に行うべきである。

中之島小中学校を訪問した時に、PTA で行っている親子読書会と習字教室を拝見した。一緒に訪問した教育学研究科の小瀬君が読み聞かせを行い、子どもたちは熱心に聴いていた。中之島小中学校のように、学校と島の人たちとの交流を日常的に行うことで、ソーシャルキャピタルの構築を作り上げると思う。しかし、児童生徒が少人数により競争が低迷化し、高校は島を離れなければならず、家庭の経済的影響は逃れない。この問題について、今後の離島教育で改善に努めることを期待したい。

2. 島の発展に向けて

将来の島嶼地域の振興に向けて以下の 3 項目につい

て方策を考えていく。

①交通政策

島嶼地域の産業や生活は、離島航路、航空路にかかっているといっても過言ではない。ゆえに、航路利用者に対する直接補助等、交通費を本土並みにするための思い切った政策の導入が必要ではないかと考えられる。また、老朽化する航路船舶の代替建造については、国による船舶の建造や購入支援をする。自治体事業による航路料金の値下げ、燃料高騰対策、離島航路整備法による社会実験の導入な制度の確立が急務である。一方、航空路については、離島航路整備法に対応する法律も未制定ではあるが、住民の足としての整備を進める必要がある。

②定住環境の整備

産業の活性化による雇用の場の確保と拡大が政策課題となっている。定住環境とは、住民が安全安心に暮らせる地域の基盤を整えることが前提となるため、ひと通りの医療・福祉・教育の確保、ネット環境の確保は現代のライフラインである。これらは既存の離島振興観では実現が難しいため、抜本的な政策導入が必須となる。

③島を生かした雇用対策の推進

離島へ定住するためには、島の実情を踏まえた雇用対策の促進が重要であり、島民だけでなく、Iターンなどの離島への定住希望者に対しても、「島で学び、島で働く」というシステムの構築が期待される。漁業や離島医療などの研修地として活用でき、また観光のガイド等人材育成、体験・環境学習指導の指導者養成など職域として期待される。

最後に中之島講義を通して、鹿児島にこんなに歴史が深く、魅力的な自然と伝統文化のある島があることを知ることができ興味深いものとなった。なにより、島の方々の優しさとパワーを感じることができたので、今後の島の活性化の源になってほしいと感じた。好釣場としても知られているので、またロッドを片手に伺いたいと思った。

短い期間でありましたが、島の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。また、引率され今まで講義をされた先生方、共に講義を受けた院生の皆さん、本当にありがとうございました。